

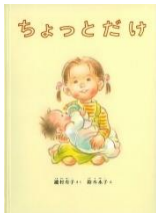
宝本

エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

今回は平成30年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。



著者名 瀧村有子／作
鈴木永子／絵
出版社 福音館書店

【書名】 ちよっとだけ
【エピソード】

私には3人の娘がいます。この絵本は、1番上の娘がお姉ちゃんになるときに買った絵本です。当時2才だった長女は、赤ちゃんが生まれた喜びとママを一人占めできなくなった寂しさでいっぱいだったと思います。小さいながらも、“自分はお姉ちゃん”という自覚が芽生え、身の回りのことを自分でしよう！と頑張っていた姿がたのもしかったです。それでもまだまだ甘えたい年頃。主人公の女の子が我が子と重なり、毎回涙が出そうになります。三女が生まれた時も、次女に沢山読んであげました。娘たちも私もこの絵本が大好きです。大事な大事な宝本です。



著者名 にしもとよう／作
黒井健／絵
出版社 童心社

【書名】 うまれてきてくれてありがとう
【エピソード】

ぼくがうまれたときに、おかあさんが「うまれてきてくれてありがとう」といってくれたそうです。おとうさんもおねえちゃんたちも「うまれてきてくれてありがとう」といったそうです。ぼくはなんだかとてもうれしくなりました。



著者名 エリック＝カール／作
もりひさし／訳
出版社 偕成社

【書名】 パパ、お月さまとって！
【エピソード】

このほんは、ひいばあちゃんが、わたしにおくってくれたなかでいちばんだいすきなほんです。パパがむすめのためにおつきさまをとりにいってくれるやさしいほんです。よんだあとやさしいきもちになります。ひいばあちゃんこのほんをおくってくれてほんとにありがとう。



著者名 原ゆたか
出版社 ポプラ社

【書名】 かいけつゾロリの王子さまになるほうほう
【エピソード】

ぼくが、この本をよんでほしいりゆうは、お父さんはもうお母さんとけっこんしているからです。お父さんは、この本をよんだらいろんなこととかをおしえてくれるかなあとおもったからです。これは、とってもおもしろい本だからぜひお父さんによませようとおもったんです。



著者名 シゲタサヤカ
出版社 講談社

【書名】 **カッパもやっぱりキュウリでしょ？**

【エピソード】

さいしょ読んだときはとてもおもしろくて家族でゲラゲラとわらってしまいました。学校のお話会で読みきかせをしたらみんなたくさんわらっていました。



著者名 ヨシタケシンスケ
出版社 PHP研究所

【書名】 **りゅうがあります**

【エピソード】

この本は、わたしもお姉ちゃんも好きな本でお母さんにおねがいして買ってもらった本です。好きなりゅうは全部ちゅういされたことをりゅうをつけていうからです。たとえば・・・びんぼうゆすりのりゅうは・・・コレは、びんぼうゆすりじゃなくて、モグラ語なんだよ。きょうのできごとをモグラにおしえてあげてるのっというところが、わたしとお姉ちゃんの好きなりゅうです。



著者名 草場一壽 / 作
平安座資尚 / 絵
出版社 サンマーク出版

【書名】 **いのちのまつり「ヌチヌグスージ」**

【エピソード】

わたしのおじいちゃんは、昨年の12月になくなりました。そのことを友達のりんさんに話すと、りんさんは、わたしにこの本をすすめてくれました。そして、この本を読んでもみると、この本には、ご先祖さまのことが書いてありました。それから、命は目に見えないけれど、ずうっとつながっているんだなと思いました。わたしは、ご先祖さまやお父さん、お母さんにあらためて感しゃしました。



著者名 渡辺茂男 / 作
山本忠敬 / 絵
出版社 福音館書店

【書名】 **しょうぼうじどうしゃじぶた**

【エピソード】

小さいころ大すきでいつもそばにおいていた本です。ぼくは今でも本だなのすみっこから時どき引っぱり出して、ページをめくって「ふっ」と1人で笑っています。小さくても、目立たなくても、かっこよくなくても、役に立ってみんなが喜ぶ事をする。そんなじぶたが好きになったのだと思います。がんばれ！！いけ！！と書いたのだと思われる鉛筆の落書きがあり、じぶたを応えんしているのがわかります。今ではじぶたにぼくが応えんされているのかもしれませんが。

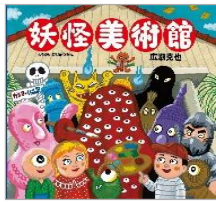


著者名 高島那生
出版社 フレーベル館

【書名】 **カエルのおでかけ**

【エピソード】

この本は、夏休みの朝読みのために借りた本です。どの本にするかとてもまよっていて、全ぜん最初は決まりませんでした。でも、妹が「この本はどう？いい本だよ」とすすめてくれたおかげで、やっとこの本に決まりました。朝読みの練習をする時に、妹に読み聞かせをしてあげると、とっても喜んでくれました。私は、この本にして本当によかったと思いました。なので、妹に「ありがとう、この本を選んでくれて」と伝えたいです。



著者名 広瀬克也
出版社 絵本館

【書名】 妖怪美術館
【エピソード】

絵からとびだしたようかいたちが大あばれするおはなしです。天さいようかいがガンマーのさくひんてんに行き、しゅじんこの男子のぼうしがとられて、みんなでとりかえせることができるかはらはらどきどきです。



著者名 バーナテッド／絵
もきかずこ／訳
出版社 西村書店

【書名】 イソップ童話 きたかぜとたいよう
【エピソード】

この本は、ぼくがほいくえんのときにであった本です。ぼくがあそびたいあそびをおとうとたちにむりやりさせようとするよりも、そのあそびをおとうとたちがやりたいとおもえるように見せることがいいとおもえたことをぼくにおしえてくれた本です。



著者名 季巳明代／作
こみねゆら／絵
出版社 フレーベル館

【書名】 四年変組
【エピソード】

この本は、私が親せきからもらった本です。友達とけんかしてしまった時に読みました。すると、1人1人が違う性格だからこそ、クラスがなりたっているという話で、どれだけ友達が大切なのかを知ることができました。だから、人と性格が違うのは当たり前なことなので、人と違っていいからといって、からかうのは良くないことだと強く思いました。これから、けんかなどをしてしまったら、この本をもう一度読んで、友達がどれだけ大切なのかということを、しっかり学びたいです。



著者名 のぶみ
出版社 講談社

【書名】 さよなら ママがおばけになっちゃった！
【エピソード】

この本は私に家族の大切さをあらためておしえてくれた本です。家族のだれかがなくなってしまうときに自分はすぐに立ち直れないと思いました。でも自分の心の中には、その人がいると思い毎日すごすことができると思いました。また、夜におきたら、その人にあえるかもしれないので、だれかがなくなってしまうとすぐ立ち直ることができると思います。私はだれかみじかな人がなくなってしまうときはこの本の内容を思い出し、すぐ立ち直ることができるようにしたいと思いました。



著者名 原田剛／作
筒井則行／絵
出版社 ワイヤーオレンジ

【書名】 小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売られました。
【エピソード】

ぼくが、母親に読んだ本です。もし、この話が自分の立場だったら、とても心細くなります。病気のことを言わず、お母さんが亡くなってから自分でいろいろなことをしないとつけなくなるので、いまからいろいろなことを覚えないとつけなくなるのを分からしてくれた、ぼくの宝本です。



著者名 佐藤雅彦
内野真澄
出版社 NHK出版

【書名】 **だんご3兄弟のえほん**
【エピソード】

おばあちゃんちに本がたくさんあって、その中でなん回もかりるのがこの本です。りゅうは、かぞくみんなでうたいながら読めるのでたのしいからです。



著者名 安武信吾
・千恵・はな
出版社 講談社

【書名】 **はなちゃんのみそ汁**
【エピソード】

この本は、わたしがおかあさんによんでもらった本です。はなちゃんという女の子のおかあさんがにゅうガンというびょうきになって、しんでしまうというとてもかなしいお話でした。はなちゃんは5さいからまい日みそしるをじぶんでつくっていてすごいなおもいました。わたしもおかあさんのおてつだいをたくさんしようとおもいました。いのちのたいせつさをしりました。



著者名 櫻井千姫
出版社 スターツ出版

【書名】 **100回目の空の下、君とあの海で**
【エピソード】

この本は2011年3月11日に起こった、東日本大震災を題材に書いたそうです。私はこの本を読むまで東日本大震災のことを忘れていました。どんなにひどいことでも、人は少しずつ忘れていくのだなと思いました。でも、この本は忘れるということは悪いことではなく、ちゃんと心で受けとめることを教えてくれました。



著者名 高野莓
出版社 双葉社

【書名】 **Orange —オレンジ—**
【エピソード】

朝読書の時間、本を忘れてしまい、なんとなく友達からかりた本で、「おすすめだから読んで」と言われ、読んでみると本を読むのが苦手な私が、すごく熱中し、2日で読み終えてしまった。読み終えた時、本のすごさを感じ、その時期、人生どうでもいいと思っていた自分の心をなんか動かされた。誰がいつ自分の言葉できずつけられているかわかんないし、自分の生き方で自分が変わる以外にも、他の人も変わるということについて考えさせられた。



著者名 きもと ももこ
出版社 福音館書店

【書名】 **うずらちゃんのかくれんぼ**
【エピソード】

私が、保育園に通っていた時期に母から読み聞かせしてもらった大好きな絵本でした。まだ小さかったため、話の内容よりも絵でかくれているひよこちゃんやうずらちゃんを見つけて、母と一緒に「みつけた!」と言って遊んでから寝ていました。親がいるっていいなとか、幸せだな、温かいなと感じる本だと思います。最後のページで、遊び疲れた2匹が、親鳥の背中で寝ている絵があって、安心します。



著者名 湊かなえ
出版社 双葉文庫

【書名】 告白

【エピソード】

この本は図書館で題名に興味を持ち、手に取って見た本です。読み進めるにつれてこの本にとっての「告白」とは何なのかが分かり、とても面白いので引き込まれていきます。基本的に本に熱中することの無い私ですが、私を楽しませてくれるこの本は私の宝本です。



著者名 水野敬也／作
鉄拳／画
出版社 文響社

【書名】 それでも僕は夢を見る

【エピソード】

ふだんの生活の中で何もかもがうまくいなくて、辛かった時、この本に助けられました。この本にでてくる主人公と同じで思い描いていたとおりにならなくて「何もかもやめてしまいたい!」と思うこともあったけど、「今、生きてることこそが何よりも素晴らしいことで、頑張り続けていればいつか良い事があるし、そんな時期もあったなと笑い飛ばせる日がくる」ということを教えてくれました。「頑張ろう!」と思い直させてくれた、わたしを励ましてくれた宝本です。



著者名 水野敬也
出版社 飛鳥新社

【書名】 夢をかなえるゾウ

【エピソード】

読書家の私の母が読んでいた本です。ドラマ化もされていて、興味があったのでために私も読んでみると、面白くて、読書が苦手な私でさえも、あっという間に読み終えてしまいました。笑えたり、心にグツときたりする、私の宝本です。なにか悲しいことやつらいことがあった時に読んでみるのもいいかもしれません。



著者名 緑川聖司／作
宮嶋康子／絵
出版社 小峰書店

【書名】 晴れた日は図書館へ行こう

【エピソード】

私が小学生の時に読んだ本です。小学生のときの私は、外で遊ぶよりは、中で本を読んだり、友達と話をしたりする方が好きで、でも仲の良い友達が皆外に遊びに行くので、あまり昼休みが楽しみではありませんでした。そのとき、この本と出会いました。この本は、「本が好きなら、天気良くても本を読めばいい」と私に教えてくれたような気がしました。今は、外での遊びも好きですが、やっぱり本を読む方が好きです。それは、きっとこの本と出会ったからだと思います。この本は、読書の楽しさを教えてくれた、私の宝本です。



著者名 くすのきしげのり／作
日隈みさき／絵
出版社 あかね書房

【書名】 やさしいティラノサウルス

【エピソード】

この本は、私にとって、すごく考えさせられた本でした。なので、この本を読んでから、私も人を見ためて判断したら、いけないなあと思いました。



著者名 島田洋七
出版社 徳間書店

【書名】 佐賀のがばいばあちゃん
【エピソード】

貧乏だっても、どんなことがあっても明るくいれば、がばいばあちゃんのようにがばい（すごい）人になれると思う。この本は明るくて元気をくれる本です。



著者名 住野よる
出版社 双葉社

【書名】 君の瞳をたべたい。
【エピソード】

学校の朝読書で読む本を探していて、お姉ちゃんにおすすめの本を聞くと、「きみのすいぞうをたべたい」と言ったので、読んでみようと思いました。この本を読んでも、次がとてもきになり、すぐ読み終わってしまいました。この本では、大切な物はうしなってから気づくんだなと思いました。とてもかんだうするお話でした。なので、この本は、私の宝本です。



著者名 川端裕斗
出版社 朝日学生新聞社

【書名】 太陽ときみの声
【エピソード】

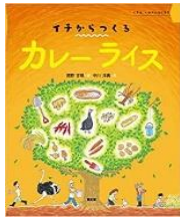
私にとってもこの本は、勇気をくれた本です。目の視力を失ってしまってもサッカーにたいする気持ちは忘れず新たな道を自ら開き、ブラインドサッカーに出会い、あきらめなければ必ず道は開くというあきらめないという気持ちをくれた本です。



著者名 ピセネール多美子／訳
あべさより／まんが
出版社 小学館

【書名】 レーナ・マリア
【エピソード】

小学3年生ぐらいのときにはじめて読んでみて、「努力」の大切さを学んだ。両うでがなく片足が半分の長さというつらい体でも、努力すれば、何でもできて、何にでもなれると、とても思いました。私は、できるようになったら、満足して、すぐやめてしまうことがあるので、できるようになったら、その先をめざして努力しつづけたいと思います。この本は、私に「努力の大切さ」を教えてくれた宝本です。



【 書 名 】 イチからつくるカレーライス

【エピソード】

学校の図書室でこの本を読んでみて、私は、カレーライスがすきなので、どんな材料を使っているのか知りたかったです。この本は、カレーライスをつくる大変さを知れました。

著者名 関野吉晴／編
中川洋典／絵
出版社 農山漁村文化協会



【 書 名 】 ふしぎ駄菓子屋 銭天堂 シリーズ

【エピソード】

楽しいときや悲しいときでも、どんな気分のときでも、不思議な世界観で楽しませてくれる本です。身近におこるようなできごとがでてくるのでとても読みやすくて元気になれます。

著者名 廣嶋玲子／作
jyajya /絵
出版社 偕成社
